



図1. 山武郡横芝光町産マルヒラタガムシ。



図2. 大網白里市産マルヒラタガムシ。

生甲虫である(中島ら, 2020)。環境省レッドリスト(環境省, 2020)において準絶滅危惧種に選定されており, 千葉県レッドリスト(千葉県レッドデータ改訂委員会, 2019)では最重要保護生物(環境省版レッドリスト基準の絶滅危惧IA類相当)に選定されている。千葉県ではこれまで富津市富津岬(山崎, 1962,

1999), 富山町【現: 南房総市】, 鴨川市江見地区(矢島, 1969; 山崎, 1999)の記録のみで, 1960年代以降の正式な採集記録は報告されていない。

筆者らは, 千葉県山武郡横芝光町および大網白里市において本種を確認したので, 千葉県内の新分布および1960年代以来の貴重な記録としてここに報告する。

5 exs., 千葉県山武郡横芝光町宮川, 13. VIII. 2018, 山崎採集, 保管。

1 ex., 同地, 16. IX. 2019, 山崎採集, 内田保管(図1)。

5 exs., 千葉県大網白里市下ヶ傍示, 16. IX. 2019, 内田・山崎採集, 保管(図2)。

横芝光町の採集地は, 岸際にヨシやマコモといった抽水植物, 水域内にはヒシ等の浮葉植物が繁茂する中規模のため池であり, 同所的にコツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp, 1873, シマケシゲンゴロウ *Hygrotrus chinensis* (Sharp, 1882), エサキアメンボ *Limnoporus esakii* (Miyamoto, 1958) 等が見られた。本水域では, 採集個体以外にも多くの個体を確認しており, 安定して生息していると考えられる。

大網白里市の採集地も, 横芝光町の地点と同様に岸際にマコモ等の抽水植物が生育する中規模のため池であり, 本水域内にはアカウキクサ属が水面を広く覆っていた。同所的にヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, 1825), キイロヒラタガムシ *E. simulans* (Sharp, 1873) 等が見られた。

末筆ではあるが, 筑波大学大学院生命環境科学研究科の松島良介氏には本種を確認する上でご協力いただいた。古旗峻一氏には本種の採集にご協力いただいた。この場をお借りして厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 千葉県レッドデータブック改定委員会, 2019. 千葉県の保護上重要な野生動物—千葉県レッドリスト動物編. 2019年改訂版. http://www.bdcchiba.jp/endangered/endang_index.html (2020年2月6日参照)。
環境省自然環境局野生生物課少種保全推進室, 2020. 環境省レッドリスト 2020. <http://www.env.go.jp/press/files/jp/113667.pdf> (2020年3月29日参照)。
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. 日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版, 東京。
矢島民夫, 1969. 千葉県南部採集目録. 千葉県動物基礎資料 8, pp. 19–48. 千葉県生物学会。
山崎秀雄, 1962. 富津海岸の鞘翅目. 千葉県動物誌基礎資料 1. 二部, pp. 46–47. 千葉県生物学会。
山崎秀雄, 1999. 千葉県の鞘翅目. 千葉県動物誌, pp. 614–713. 文一総合出版, 東京。

(山崎 駿 263–8522 千葉市稲毛区弥生町 1–33 千葉大学理学部化学科)

(内田大貴 188–0011 西東京市田無町 3–10–9 特定非営利活動法人 NPObirth 自然環境マネジメント部)

【短報】ショウリョウヒゲブトハネカクシの関東地方からの記録

ショウリョウヒゲブトハネカクシ *Creochara brevipennis* (Bernhauer, 1903) は, 日本最大級のヒゲブトハネカクシの一種である。形態については Maruyama (2004) に詳しい。なお, 属は「旧北区カタログ」の2015年の増補改訂版では *Tetrasticta* が使用されている。Pace (2010) が *Creochara* を *Tetrasticta* の下位シノニムにしたためである。ただし, Yamamoto



図1. ショウリョウヒゲブトハネカクシ²⁾(千葉県南房総市産)。



図2. 確認環境（千葉県南房総市）.

& Maruyama (2013) によれば、この処置は適切な説明をとまわず同意できないとのことである。そのため、ここでは *Creochara* を使用する。和名は、仏教用語で死者の靈魂を意味する「精霊（しょうりょう）」に由来し（山本，2010），夜間に動物の死体に集まる生態にちなむようだ。

本種はベトナムのマウソン山（Montes Mauson）から得られた標本をもとに記載され（Bernhauer, 1903），東南アジアから東アジアにかけて広く分布する（Schülke & Smetana, 2015）。近年では，朝鮮半島からも見つっている（Song & Ahn, 2017）。

日本では奄美大島から初めて発見され，Hayashi (1994) によって記録された。柴田ら (2013) の『日本産ハネカクシ科目録』によると，日本では，本州，四国，九州のほか，島嶼部は琉球（屋久島，奄美大島，沖縄島）および対馬から生息情報がある。

筆者らは，これまで記録のなかった神奈川県，千葉県において本種を確認しているので分布情報を追加する。

1 ex., 神奈川県秦野市三廻部，9. VIII. 2011，遠藤採集；1 ♂，千葉県南房総市白浜町乙浜，22. III. 2020，亀澤採集，それぞれ採集者が保管。

神奈川県秦野市では，標高約 380 m の地点で，水無川沿いの林道の谷部で行ったライトトラップに飛来したものが確認された。ライトにはハロゲンランプとブラックライトを使用していた。周辺環境は落葉広葉樹林で，一部にスギ植林が混じっていた。

千葉県南房総市では，海岸に近い低山の裾野の標高 17 m ほどの地点で，照葉樹林の林縁環境において確認された。採集個体は，午前 8 時ごろに，骨と皮に干からびた肉少々，体毛の一部を残しただけの，やや古びたホンデテン（イタチ科）の死体の直下の

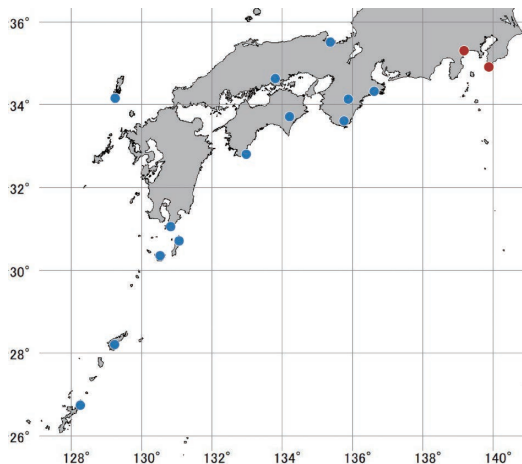


図3. 国内分布図（青い●は既知の記録地，赤い●は本報文による新記録地を示す）.

落葉層から見つかった。

調べたかぎりでは，紀伊半島から関東地方の中間からの本種の記録は見当たらず，これまでの記録地からいくらか飛び離れた地域からの記録となる。房総半島南部は現時点で本種の最東の確認地である。

既記録地と今回の新記録地をまとめると以下のようになる。

[本州] 千葉県（本報告）；神奈川県（本報告）；三重県（横関，2013）；和歌山県（Maruyama, 2004）；京都府（黒田，2019）；奈良県（Maruyama, 2004）；岡山県（千田，2018）。

[四国] 徳島県（Maruyama, 2004）；高知県（中山，2007）。

[九州] 鹿児島県（Maruyama, 2004）。

[島嶼部] 対馬（Yamamoto, 2009），種子島（大坪，2013），屋久島（Maruyama, 2004），奄美大島（Hayashi, 1994; Maruyama, 2004），沖縄島（Maruyama, 2004）。

記録は散発的で，確認のある県，島でも記録が数件にも満たない場合がほとんどであった。

また亀澤の手元には 2 月に奄美大島で採集された個体があるので合わせて記録しておく。

5 ♂♂ 6 ♀♀，鹿児島県大島郡宇検村ヤクガチヨボシ岳山麓，25–27. II. 2004. 亀澤採集・保管。

鶏ガラを用いた腐肉トラップで得られた。本種は春季から夏季に得られることが多いが，早春から活動を開始しているようである。

末筆ながら，本種の学名についてご教示くださっ

た丸山宗利博士（九州大学総合研究博物館）と、文献情報を教えてくださった今坂正一氏（久留米市）と山本周平博士（北海道大学総合博物館）、文献入手に手を貸してくださった吉富博之博士（愛媛大学ミュージアム）と野村周平博士（国立科学博物館）に深謝する。

引用文献

- Bernhauer M. 1903. Beitrag zur Staphylinidenfauna von Ostindien und den Sundainseln. Stettiner Entomologische Zeitung, 64: 21–36.
- Hayashi, Y., 1994. New record of Staphylinidae (Coleoptera) from Japan (1). The Entomological Review of Japan, 49: 4.
- 黒田悠三, 2019. ショウリョウヒゲトハネカクシの京都府からの記録. さやばねニューシリーズ, (33): 44–45.
- Maruyama, M., 2004. Redescription of *Creochara* (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae, Aleocharini) and systematic position. The Canadian Entomologist, 136: 621–637.
- 中山紘一, 2007. 高知県のハネカクシ覚え書き, げんせい, (83): 7–10.
- 大坪修一, 2013. 種子島で採集観察した昆虫②甲虫 (2002年4月～2007年8月). SATSUMA, (149): 1–50.
- Pace, R., 2010. Aleocharinae della regione Orientale al Museo di Genova (Coleoptera, Staphylinidae). Annali del Museo Civico di Storia Naturale 'Giacomo Doria' 102: 295–335.
- Schülke, M. & A. Smetana, 2015. Staphylinidae. 304–1134 pp. In: Löbl, I. & D. Löbl eds., Catalogue of Palaearctic Coleoptera, revised and updated edition (Hydrophiloidea - Staphylinidea), Brill.
- 千田喜博, 2018. 中国地方におけるショウリョウヒゲトハネカクシの記録. さやばねニューシリーズ, (30): 63.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録 (昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69–18.
- Song, J.-H. & K.-J. Ahn, 2017. Two Aleocharini (Coleoptera: Staphylinidae: Aleocharinae) species new to Korea. Journal of Asia-Pacific Biodiversity, 10 (2017): 271–273.
- Yamamoto, S., 2009. *Creochara brevipennis* (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) new to Tsushima Is., Southwest Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 15: 307–308.
- 山本周平, 2010. 日本産ヒゲトハネカクシ亜科ヒゲトハネカクシ族について. ハネカクシ談話会ニュース, (38): 1–8.
- Yamamoto, S. & M. Maruyama, 2013. A peculiar new species of the genus *Tetrasticta* Kraatz (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) from Peninsular Malaysia. Zookeys, 336: 39–46.
- 横関秀行, 2013. 大台町 (旧宮川村) の甲虫. ひらくら, 57: 1–8.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)
(遠藤千秋 257-0053 秦野市清水町 9-21
コーボきよみず B-201)

【短報】奈良県下からのクロツツヒラタムシの記録

クロツツヒラタムシ *Ancistrus reitteri* Lewis, 1893 は、熊本県湯山から獲られた個体により G. Lewis によっ



図1. クロツツヒラタムシ (左: 表面, 右: 裏面)。

て 1893 に記載された (Lewis, 1893). その後、愛媛県小田 (佐々治, 1989), 福岡県川崎町 (高倉, 1989), 同飯塚市 (山脇, 1995), 同東峰村 (城戸, 2019) の記録はあるようだが、奈良県下からの記録は見当たらない様である。筆者の手元に奈良県下で得られた個体があるので、以下に報告する。

1 ex. 奈良県奈良市雑司町若草山, 23. V. 2019, 杉本眞次採集, 筆者保管。

本個体は、若草山にて採集許可 (奈良県指令奈良公事第 6-14) を得て調査中に、シラカシの大きな風倒木の枝部ビーティングにより得られたもので、その後も筆者ら含め追加を試みたが、得られていない。

末筆ながら、貴重な標本を恵み頂き、記録の発表を快諾頂いた杉本眞次氏、奈良公園内での採集許可を申請頂き、文献入手にもご協力頂いた大阪市立自然史博物館の初宿成彦主任学芸員、文献入手にご協力頂いた生川展行氏に深謝の意を表する。

引用文献

- 城戸克弥, 2019. 丸山式 FIT で得られた東峰村岩谷公園の甲虫類. 久留米昆虫研究会 KORASANA, (91): 87–107.
- Lewis, G. 1893. Japanese coleoptera-two new species. The Entomologist's monthly magazine. Second series-Vol.IV. [VOL. XXIX.]: 83.
- 佐々治寛之, 1989. ツツヒラタムシに寄せて. 福井虫報, (5): 1–2.
- 高倉康男, 1989. 福岡県の甲虫相. 葦書房 (自刊): 1–521, 5 pl.
- 山脇好之, 1995. 笠置山 (飯塚市) の鞘翅目目録 (13). 1995 年. Kasagi (自刊), (5): 61–76.

(齋藤琢巳 661-0045 尼崎市武庫豊町 3 丁目 2-25
サンヴェール武庫之荘 913)